

策定年月日	R7.3.31
更新年月日	()
目標年度	令和16年度
市町村名 (市町村コード)	伊賀市 (242161)
地域名 (地域内農業集落名)	府中 服部町

注：「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域計画の区域の状況

区域内の農用地等面積（農業上の利用が行われる農用地等の区域）	72.44 h a
① 農業振興地域のうち農用地区域内の農地面積	49.57 h a
② 田の面積	48.57 h a
③ 畑の面積（果樹、茶等を含む）	0.19 h a
④ 区域内において、規模縮小などの意向のある農地面積の合計	h a
⑤ 区域内において、今後農業を担う者が引き受ける意向のある農地面積の合計	28.7 h a
(参考) 区域内における〇才以上の農業者の農地面積の合計	h a
うち後継者不在の農業者の農地面積の合計	h a
(備考)	

注1：①については、農業振興地域担当部局と調整の上、記載してください。

2：②及び③については、農業委員会の農地台帳の面積（現況地目）に基づき記載してください。

3：④については、規模縮小又は離農の意向のある農地面積を記載してください。

4：⑤については、区域内に特定することができない場合には、引き受ける意向のあるすべての農地面積を記載の上、備考欄にその旨記載してください。

5：（参考）の区域内における〇才以上の農業者の農地面積等については、できる限り記載するように努めてください。

(2) 地域農業の現状及び課題

当地区は、農業者の高齢化が進み、今後遊休農地の発生が懸念されることから、持続的に農地の利用を図りながら地域の活性化を進めるためには、新規就農者を確保・育成しつつ、地域住民などを交え地域全体で農地を利用していく仕組みの構築が喫緊の課題である。このため、分散する担い手の農地を集約化するとともに、地域で取り組める新たな作物を検討していく必要がある。

【地域の基礎的データ】

農業者：11名

主な作物：水稻・麦・大豆・梨・飼料作物

(3) 地域における農業の将来の在り方（作物の生産や栽培方法については、必須記載事項）

地域の特産物である伊賀米の生産を継続していくため、農地の集積・集約化を進め、さらに農作業の効率化を図るため、スマート農業の導入を進める。併せて梨の生産拡大に向けた水田の畑地化を進める。

また、地域コミュニティの活性化のため、地域内外から農地を利用する者を確保し、担い手の農地の集約化に配慮しつつ、農業を担う者への農地の再分配を進めることができるよう必要な条件整備を実施し、地域と担い手が一体となって農地を利用していく体制の構築を図る。

2 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用に関する目標

(1) 農用地の効率的かつ総合的な利用に関する方針			
・担い手農家への農地集積・集約化を基本とする。			
(2) 担い手（効率的かつ安定的な経営を営む者）に対する農用地の集積に関する目標			
現状の集積率	39.6	%	将来の目標とする集積率
			39.6 %
(3) 農用地の集団化（集約化）に関する目標			
・農地中間管理事業を活用しつつ、団地数の削減及び団地面積の拡大を図る。			

3 農業者及び区域内の関係者が2の目標を達成するためとるべき必要な措置

(1) 農用地の集積・集団化の取組				
・農地中間管理機構を活用して、認定農業者や新規就農者を中心に団地面積の拡大を進めるとともに、担い手の農地集積を進める。				
(2) 農地中間管理機構の活用方法				
・地域全体の農地を農地中間管理機構に貸付け、担い手の経営意向を斟酌し、段階的に集約化を進める。				
(3) 基盤整備事業への取組				
・水路、農道の保全管理を農地中間管理機構関連農地整備事業などを活用し、令和16年度までに実施する。				
(4) 多様な経営体の確保・育成の取組				
市町村と連携し、地域内外から多様な経営体を募集し、栽培技術などの支援や生産する農地を斡旋し、相談から定着まで切れ目のない取組みを展開する。				
(5) 農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の取組				
地域内で農作業の効率化を図るため、麦・大豆の乾燥・調整作業は伊賀ふるさと農業協同組合へ委託するとともに、それ以外の畦畔・暗渠の作業並びに担い手が引き受けるまでの作業は、印代営農組合に委託し、遊休農地の発生防止を図る。				
以下任意記載事項（地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組内容を記載してください）				
☒ ①鳥獣被害防止対策	☒ ②有機・減農薬・減肥料	☒ ③スマート農	☐ ④畑地化・輸出等	☒ ⑤果樹等
☐ ⑥燃料・資源作物等	☒ ⑦保全・管理等	☒ ⑧農業用施設	☐ ⑨耕畜連携等	☐ ⑩その他
【選択した上記の取組内容】				
①近年近隣まで獣害が広がっているため、将来的に獣害対策を進める。				
②スマート農業と連携して減肥料を推進する。堆肥を利用することによる減肥料を推進する。				
③農地、作業管理システムを導入することにより耕作者、耕作物の管理を効率化する。				
⑤梨・ぶどうの生産を拡大し、販路の拡大を行う。				
⑦水路、農道の保全管理を継続する。				
⑧担い手の営農や農業を担う者の利用状況などを考慮し、出荷・調整施設など農業用施設の集約化を進める。				

4 地域内の農業を担う者一覧（目標地図に位置付ける者）

属性	農業を担う者 (氏名・名称)	現状			10年後 (目標年度：令和 16 年度)				
		経営作目等	経営面積	作業受託面積	経営作目等	経営面積	作業受託面積	目標地図上の表示	備考
認農	農業者C	水稻	2.9 ha	ha	水稻	2.9 ha	ha		
認農	農業者E	水稻、梨	2.9 ha	ha	水稻、梨	3.2 ha	ha		
認農	農業者B	水稻、麦、大豆	11.3 ha	ha	水稻、麦、大豆	11.3 ha	ha		
認農	農業者A	水稻、麦、大豆、畜産	7.8 ha	ha	水稻、麦、大豆、畜産	8.5 ha	ha		
	農業者G	水稻	0.5 ha	ha	水稻	0.5 ha	ha		
	農業者D	水稻	1.2 ha	ha	水稻	1.5 ha	ha		
	農業者F	水稻	0.8 ha	ha	水稻	0.8 ha	ha		
	農業者H	水稻	0.7 ha	ha		ha	ha		
	農業者I	水稻	0.6 ha	ha		ha	ha		
計	9経営体		28.7 ha	ha		28.7 ha	0 ha		

注1：「属性」欄には、認定農業は「認農」、認定新規就農者は「認就」、法人化を行うことが確実であると市町村が判断する集落営農は「集」、基本構想水準到達者は「到達」、農業協同組合は「農協」、農業支援サービス事業者（農協を除く）は「サ」、上記に該当しない農用地等を継続的に利用する者は「利用者」の属性を記載してください。

2：「経営面積」「作業受託面積」欄には、地域計画の対象地域内における農業を担う者の経営面積、作業受託面積を記載してください。

3：農業を担う者に位置付ける場合は、できる限りその者から同意を得ていること。

4：作業受託面積には、基幹3作業の実面積を記載してください。なお特定農作業受託面積は、作業受託面積に含めず、経営面積に含めてください。

5 農業支援サービス事業者一覧（任意記載事項）

番号	事業体名 (氏名・名称)	作業内容	対象品目

6 目標地図（別添のとおり）